年度は日本医学教育認証評価評議会（JACME）による医学教育分野別評価についての議論がなされ、その成果は自己点検評価書作成や実地調査に生かされ、7年間の認証取得に繋がりました。

今回は、「自己調整学修について」をテーマに、2024年3月26日（火）に22名の教職員の参加の下、熊本大学医学総合研究棟講習室で開催されました。

まず、2023年7月に着任した総合医学教育学講座の吉田素文教授から「『医の学びを育てる』ための具体的方策」と題した問題提起が行われました。医学科の2023年度4、5、6年生の4年次の共用試験CBTの成績の全国との比較、6年生の卒業試験と同じ学生が4年次に受験した共用試験CBTとの成績比較が提示されました。次に教育・教務委員会が主導する新たな取り組みについて報告があり、自己調整学習の概念、海外の研究成果と教育現場へのフィードバック状況、本学学生における自己調整学習の一次～三次予防として、考えられる取り組み事例が提示されました。その後、グループに分かれて具体的な予防方略について活発な議論が交わされ、全体発表で共有しました。

このFDWSが本学の医学教育を改善し、優れた医師の育成として社会貢献につながるものと確信しています。最後ではありますが、本ワークショップに大変ご多用の中ご参加していただきました教職員の皆様に感謝申し上げますとともに、御支援をいただきました肥後医育振興会に御礼申し上げます。

肥後医育振興会
第24回熊本エイズセミナー開催報告

ヒトレトロウイルス学共同研究センター
教授　佐藤　賢文

今年度の熊本エイズセミナーは、熊本県民交流館パレアホールを会場に2023年11月6日と7日の2日間にわたって開催しました。参加者約120名、内約50名が留学生を含む外国人学生・研究者と、例年通り国際色豊かなセミナーとなりました。海外からCharles Bangham博士（Imperial College London, UK）、Jiri Zahradnik博士（Charles University in Prague, Czech Republic）、Aileen Rowan博士（Imperial College London, UK）、国内から岩谷靖雅先生（名古屋医療センター）、山本浩之先生（感染研）といった、幅広い世代かつ第一線のエイズ研究者を招聘しました。本センター鹿児島キャンパスから前田賢次先生、中畑新吾先生、松田幸樹先生などレトロウイルス研究者が参加し、国立感染症研究所からは立川愛先生、俣野哲朗先生など、司会やディスカッションに参加いただきました。

本セミナーは熊本大学生命科学研究部大学院先端感染症研究者育成コースの活動としても行われており、大学院生を中心に若手研究者によるポスターが41題発表され、国内、国外の専門家を含めた活発な議論が行われたこと、次世代研究者育成の面からも、大きな成果となりました。

セミナーの計2日間を通じ、国内外の関連領域の研究者と密に議論出来た事は更なる共同研究の推進に意義が大きく、新たな国際共同研究も始まっています。熊本大学でこれまで活発な研究が行われ、多くの成果を挙げてきたヒトレトロウイルス研究を進めている本センターにとっても、エイズ研究、HTLV研究コミュニティへプレゼンスを示す場ともなりました。海外からのリピーターも多くなり、例えば、本センターの客員教授でもあるCharles Bangham博士はこの20年間で10回以上熊本に訪問しており、海外も含めたネットワークの拡大につながっています。

末筆ながら、本セミナーの開催にご支援いただきました肥後医育振興会の皆様に改めて厚くお礼申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。